OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	要望課題に思う
Author(s)	加藤, 敬男
Citation	大阪公衆衛生. 1969, 21, p. 17-17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84395
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

要望課題に思う

加　藤　敬　男

濁りの増した加茂の流れ，古いたたずまいが，次第に消えてゆく町並に一まつの淋しさを感じたが，古都にふさわしい近代建築の京都会館の前に立って，なにか救われたような気持になり，大きな期待を持って学会に臨んだ。

私の仕事に関連のある第２分科会（食品衛生・環境衛生・栄養）は，さきの第22回日本公衆衛生学会（大阪）において初めて設けられた公衆衛生監視分科会の意図を引き継いで，公衆衛生監視業務の問題を中心に討議を深め，食品衛生関係の要望課題には，食品監視の効率化とインスタント食品の問題点の２題が予定されていた。

ところがふたをあけて見ると，要望課題に直接関連ある演題は数題にすぎないうえに，発表にはスライドをなくして討議を深めるという，主催者の意図が，うまく汲み取られていないこともあって，盛り上がりがなく非常に残念であった。

要望課題のテーマの選び方に問題があるのではなかろうか。このことを考える前に，本分科会への演題提出者を，所属別に大別してみた。大学，衛生研究所等の研究機関37，保健所等の行政機関15，両者の共同研究９，その他２と行政担当者，インスペクターの発表は非常にすくない。さきに大阪で開催された第22回学会においても公衆衛生監視分科会の演題数は，大阪市を除くとわずか12題のみであったことを考え併せると，インスペクターの学会に対する関心がうすいといえそうだ。

インスペクターは，日常の業務を通じて，貴重な資料を豊富に持っている。これを学会にぜひ発表していただき，公衆衛生監視部門の充実を図っていきたいものである。

インスペクターが学会と疎遠である理由の探索は，後日にゆずるとして，食品衛生監視員の場合，毎年11月全国食品衛生監視員研修会を開催して各府県府市あるいはブロックから選ばれた優秀な調査研究発表を行なっている。この会が，日本公衆衛生学会と競合しているので，なんらかの打開策を講ずべきであろう。与えられた字数も残りすくなく，発表内容についてふれることは出来ないが特に印象の深かったものの一つは大阪市東保健所後藤武氏の発表「大腸菌群汚染状況検査を主にした集団給食施設の自主管理指導について」であった。現在業界の自主管理推進のための自主組織は，官制の自作自演のものがほとんどを占め，保健所でもその運営に苦慮している場合が多い。関係者の方々が，名実ともに自主管理の第一歩をふみ出されたことは，私達にも啓発されるところが多く，今後事業の発展に大いに期待したい。

〔大阪市東成保健所〕